

26W-am05S

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の多剤排出遺伝子 *qacB* の推移と薬剤感受性の関連性

○高玉 駿介¹, 中南 秀将¹, 野口 雅久¹ (¹東京薬大・薬・病原微生物)

【目的】院内感染の主要な原因菌であるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) の感染予防策として、手指消毒が行われている。しかし、近年 *qacA/B* などの多剤排出ポンプをコードする遺伝子を獲得し、消毒薬に対する感受性が低い MRSA が分離されている。以前、我々は *qacB* がフルオロキノロン系抗菌薬の耐性に関与している可能性について報告した。本研究では、複数の病院で分離された MRSA における多剤排出遺伝子の分布と抗菌薬感受性の関連性について研究した。

【方法】東京の3病院において、2008年から2012年に分離された MRSA 2,686株を使用した。*qacA/B* の検出はPCR法により行った。*qacA* および *qacB* のタイピング、*qacB* のサブタイピングはRFLP法とDNAシーケンス法を用いて行った。薬剤感受性は2倍系列寒天平板希釈法により測定した。

【結果と考察】*qacA/B* の検出を行ったところ、いずれの病院由来株においても30~40%の検出率で推移していた。さらに、*qacA/B* 保有株に対し *qacA* と *qacB* のタイピングを行った結果、各年で *qacB* 保有株よりも *qacA* 保有株の方が10~40%多かった。しかし、2病院において *qacB* 保有株の増加が認められ、levofloxacin に対する耐性が上昇傾向にあった。本研究から、異なる病院においても MRSA の約30~40%が *qacA/B* を保有していることが明らかとなった。また、*qacB* は消毒薬だけでなく、フルオロキノロン系抗菌薬の耐性にも関与していることが示唆された。